

女性医師支援センター 便り

宮城県医師会 令和3年度医学生・研修医支援セミナーの報告



宮城県医師会常任理事

宮城県医師会女性医師支援センター委員

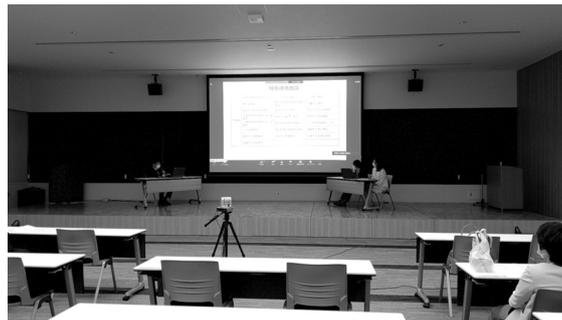
福 興 なおみ

6月30日(水)に宮城県医師会館で、令和3年度医学生・研修医支援セミナーが開催されました。初のWeb開催です。佐藤和宏会長の挨拶に始まり、橋本省本会女性医師支援センター長から本セミナーの主旨が紹介されました。引き続き福興の司会のもと、「キャリア形成のヒント～私の選んだ道Ⅳ～」というテーマで、仙台市立病院産婦人科医長の佐々木恵先生と宮城県がんセンター呼吸器内科医療部長の鈴木綾先生にご講演いただきました。

佐々木恵先生の演題名は、「ある医師夫婦の選んだ道 キャリアと育児」です。ご主人が当直中とのことで、ご自宅からのご講演を引き受けてもらいました。ご夫婦で家事育児を半々で担い、仕事では自分たちの積みたいキャリアを積んでいるお姿をお話しくださりました。夫婦のどちらかが妥協するとか諦める、ではなく、お互いのキャリアを尊重してお互いが納得いく働き方が実現できていることは理想的で、医学生や研修医にとってとても刺激になったと思います。ご講演と一緒に登場して下さった共同講演者(佐々木先生のお子さま方)のお姿も、医学生や研修医には印象深かったのではないかと推測します。子育てと仕事の両立の現実を目の当たりにできたことは、Web開催ならではの良い点だと思いました。

鈴木綾先生の演題名は、「呼吸器内科に入ってみてわかったこと・子育てしててわかったこと」です。診断から治療、終末期に至るまで患者さんとそのご家族とも長い間関わる呼吸器内科の面白さをお話しくださりました。また、ひとり親でも子育てしながら常勤医として働いていらっしゃる様子のお話の中では、子育てと仕事の両立の上での悩みや困りごとのリアルな詳細を聞くことができたので、医学生や研修医はきっと興味深かったことと推測します。鈴木先生は、「辞めずに臨床医を継続できるのは周囲の多大な協力があったことです」とお話しなさいました。その点においては、感謝の気持ちを常に抱きつつ自身の努力を怠っていない鈴木先生だからこそ、周囲からの理解と協力もある、ということ、医学生や研修医の先生にはわかってほしいなと思いました。

次に、東北大学病院輸血・細胞治療部副部長/准教授である藤原実名美先生の座長のもと、田畑雅央先生に特別講演をしていただきました。東北大学病院医療安全推進室長 特命教授/東北大学病院内科専門研修プログラム副責任者である田畑雅央先生には何度もこのセミナーにご参加いただいております。今回も「専門医制度について」大変わかりやすく丁寧に解説してもらいました。いろいろな面で複雑な現行の専門医制度です。そのような制度を理解しなければならない研修医の大変さが推測されます。田畑先生は、その点を見越して、研修中にどのような点に気をつければ良いかも解説して下さったので、医学生や研修医にとって非常に有意義なお話だったのではないかと思います。



その後のディスカッションでは、女性医師の働き方、地域枠での専門医取得についてなど、様々な質疑応答がなされました。最後に、宮城県医師会常任理事で、本会女性医師支援センター委員の佐々木悦子先生の挨拶で、セミナーは閉会しました。

今回は、主催者である宮城県医師会、宮城県医師会女性医師支援センター委員、講演者お二人は宮城県医師会館からの配信、聴衆の方はオンラインで参加するという初のWeb開催でした。聴衆の方々の反応や反響を見ることができず、残念でしたが、Webだからこそ講演が可能になったり、参加できた方もいたのも事実です。開催にあたり準備して下さった宮城県医師会の事務局の方、参加して下さった皆様（もちろん佐々木恵先生のお子さま方にも！）に感謝申し上げます。ありがとうございました。

